古河市
# 第7地区コミュニティ
広報
2022.03.01 発行
第2号
the town; east side of Watarase River

第7地区コミュニティ
会長 **熊木津佐雄**

## 第7地区コミュニティの活動報告と今後の展望

常日頃より第7地区コミュニティ活動に対しご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

一昨年12月に設立してから1年2ケ月がたちました。第7地区コミュニティはこの間の活動として広報第2号を発行し、報告することにしました。

昨年から第7小学校の学童の登下校時の見守りや、立哨活動を各自治会、老人会、民生委員、子ども会、保護者の方達の協力で実施しています。

新型コロナ感染拡大防止等により三密（密閉・密集・密接）が徹底され、非常事態宣言が発せられるなどで各事業等が自粛や中止となり、実行できませんでした。今後の感染状況にもよりますが、この先もいろいろなイベントの開催や世代間交流を促進し、防災、交通安全活動などを通して地域の絆づくりができるようにと願っております。

そして、安全・安心で住みやすい地域づくりのためにも、皆さま方のより一層の参加、ご協力をお願いいたします。

## 子どもたちの見守りと交通安全

第7地区コミュニティの活動の第一歩は子どもたちの登下校の見守りの強化です。第7小学校の学童数は年々増加傾向をたどり、古河市内で最も多い状況となっています。一方で、学童が行き来する通学路では、特に「公方通り」は大型トラック等の往来が頻繁で通行量の多いうえに、信号機が設置されていない交差点もあり、大きな危険が潜んでいる現実があります。

私たちは第7小学校から危険個所を記載した通学路安全マップを提供してもらいました。それによると、危険な交差点が13ヵ所あり、おのずと立哨するポイントが明確になったわけです。

昨年4月の新学期から立哨を強化させました。地区長をはじめ各自治会長や老人会、民生委員、保護者、ボランティアを含め約30名のみなさんが毎朝7時30分ごろから8時過ぎまで立哨活動をしています。子どもから元気よく「おはようございます。」と声を掛けられるなどコミュニケーションも生まれてきています。また、個々の自治会によっては以前から子どもたちに付き添いながら通学の見守りを行っているところもあります。

コミュニティ活動としてはまだまだ緒に就いたばかりですが、こうした地道な活動が地域の方々の目に留まり、理解されることを心から願っております。そして、自発的に何か社会のために役に立ちたいと地域の方々が見守り活動に参加されるよう希望します。かけがえのない子どもたちの命を守るために!!

# 第7地区コミュニティその他の活動報告

## ボランティアで環境美化活動を実行

### 『美しい、思いやりのあるまち』づくり

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市民総ぐるみ清掃が中止になり、なんとなく街の美観が損なわれていく中で、コミュニティの福祉事業として、環境美化活動を実施しました。

第７小学校周りの防犯灯に被さる樹木の剪定・伐採を行い周辺を明るくするとともに、街の治安を良くしました。学童の通学路では街路樹の枝切り、および草抜き、落ち葉清掃を、さらに三和公園やいこいの家周りでは、垣根の剪定や樹木の伐採を行いました。

この活動には、第７小学校の先生方、学童をはじめ、あけぼの台自治会、光陽台老人クラブ、ボランティアのみなさんに協力していただきました。

### 令和4年度コミュニティの一斉清掃

古河地区一斉清掃は、市の方針では廃止になりましたが、第7地区コミュニティでは、「美しい、思いやりのあるまち」づくりをめざして、従来通り9月および3月、各自治会において一斉清掃活動を実施します。

美しい私たちの街を、取り戻すため、これからもぜひ皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。

## 水害から身を守る説明会を開く

当地域は、利根川・渡良瀬川が氾濫した場合、甚大な被害を受ける恐れがあるため、古河市の水防の対応に関する考え方について、説明会を7月7日水曜日に開催しました。

午後３時からの時間帯にも関わらず、31名の方が参加しました。内容は「いつ」「どのような」行動をとるのか、「避難判断」のポイント等でとても参考になりました。大切なポイントは

**「いつ」＝避難指示段階の３レベルで判断し行動する。**

指定されている避難所は古河市全体で32ケ所、約9,000人位しか収容できない。一杯になってしまったら高台に自分の車で逃げるのもやむを得ない。

**「どこへ」＝古河地区より総和・三和地区が安全レベルは高い。**

水害はまず**「自分の身を守ること」「早く逃げること」**であると教わりました。そのためには日頃から家族で災害について家庭内でも話し合い、「いつ」「どこへ」逃げるのか「マイ・タイムライン」を作成するなど備えることが大切です。

## 民生委員・児童委員が身近な相談相手に!

第7地区には10名(1名欠員)の委員が、それぞれの担当区域でみんなが安全に安心して生活できる地域づくりのボランティア活動をしています。

全ての民生委員は児童委員も兼ねており、子育ての不安に関する相談や支援を行っています。

介護の悩みや、障害のある方、一人暮らしの高齢者など地区住民の身近な相談相手となり、必要であれば支援を必要とする住民と、行政や専門機関をつなぐパイプ役を担っています。また、相談者の秘密は必ず守ります。(守秘義務)

訪問活動、サロン活動、見守り活動、防災活動など子供から大人まで皆さんと関わって、「支え合うまちづくり」活動をしています。

福祉施設紹介

## NPO法人ふれあい・地域活動支援センターふれあい

第７地区のほぼ中央に古河市福祉の森会館があります。この会館には社会福祉協議会を始め種々の福祉関係施設がありますが、なかでもあまり知られていない施設が今回ご紹介する『NPO法人ふれあい・地域活動支援センターふれあい』です。この施設は古河市からの委託を受けて心の病を持った方の社会参加をサポートする目的で設立されました。

もともとはこれらの病を持った方々の家族が軽作業などを通じて社会に参加させようと始めた施設ですが、平成20年に福祉の森会館に移設する際にNPO法人として活動を始めました。現在は約20数名が登録し毎日10数名の方が通所しています。

福祉の森会館の北側にある、虹色ファームや手芸部といった家族会やボランティアさんが主体となった活動、施設内にある喫茶店「ほっとcafe」での厨房作業や接客、内職作業、虹色ファームで採れた朝どれ野菜の販売など自分の能力に合った作業を通して社会生活に適応する訓練や習慣を身に付けていきます。

このほかにも図工やスポーツ、季節のイベントなど様々なレクリエーション活動も行っています。園芸作業では中庭のテラス側にゴーヤを育て、古河市みどりのカーテンコンテストに毎年入賞しています。

施設としては非常に苦しい経営ですが、細々の内職と、cafeの売り上げ、家族会「すずらん会」のボランティア支援や一般の方からの篤志寄付等を受けてぎりぎりで運営をしております。皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

ほっとcafe(火・水・金のみ営業)では390円でランチをご用意しています。ぜひご来店ください。また手芸やファームのボランティアも募集していますのでお気軽にお問合せください。(☎0280-48-6719)

# 第7地区コミュニティへの参加組織紹介

## 緑に囲まれた自然豊かなひばりが丘自治会

ひばりが丘地区は古河市内の西南に位置します。近くには福祉の森会館や第7小学校、第4保育所などがあり、森と緑に囲まれた自然豊かな地域です。ひばりが丘自治会は昭和40年に発足しました。「会員相互の親睦融和」や「子供会、PTA等の組織と連携を密にし、自治会全般の資質の向上を図ること」。会員数は95世帯(令和3年4月1日現在)です。かつては自治会独自の運動会を開催するほど。いつも子どもたちの元気な声があふれていました。

近年、この地域は宅地開発が進んでいます。当自治会は3年前に某住宅会社が分譲した地区の居住者(35世帯)を新たな会員として受け入れました。そして昨年5月からは、さらに新分譲地区(27世帯)のみなさんにも加わってもらうことにしました。

新居住者の自治会加入に当たっては総会での採択や全会員への意向調査を踏まえ決定に至りました。中には「50年以上の歴史と伝統のある自治会なのだからこのままでいい」との反対意見も散見されました。これまで自治会運営に労苦を重ねてこられた方々にとっては当然の意見だと承知しており、敬意を表するところであります。

これからの課題は高齢化が進む従来地区の人々と、新たに住み始めた若い人たちが相互に交流を深め、理解し合うことです。そのために当自治会では、お年寄りから子どもたちまでが楽しめるような音楽を通したイベントなども計画しています。

## けやき平老人クラブ「けやき会」

古河市の古河老人クラブ連合会の中では、けやき平老人クラブ「けやき会」はNO.99の登録です。

発足して10余年が経過しました。現在では、離脱を余儀なくされた老人クラブが多くなっています。理由は色々あるかと思いますが、今後の問題点も少なくありません。

「けやき会」では会員と共に清掃・草刈り・花の植込み、近隣周辺の見学など様々な行事や集会ごとのふれあいにより、仲間意識の向上・友愛心の芽生え等、沢山のメリットが生まれてきました。

そして、「けやき会」では、

- ＊地域を豊かにする安全・安心の街づくり
- ＊心と身体の健康づくり・介護予防活動
- ＊同世代の連携と支え合い・次世代への社会貢献
- ＊趣味・教養活動でのつながりと友愛活動

という生きがいづくりをこれからも目差して行く方針です。

このスローガンに近づく行動を以て、「ゆるやかに、穏やかに、なごやかに」出来ることから、進めていきたいと思います。この事が老人会の基本母体である「けやき平自治会」への協賛・協力、そして地域活性化・社会貢献の一助となっていると思っております。このたび私共も加入した「古河市行政自治の第7地区コミュニティ」の今後益々の発展をともに創っていきたいと考えています。

新型コロナ禍が未だ終息していない状況下ですが、何か協力出来る事があれば、「けやき会」のみなさんと、ご助力したいと願っております。

## たった3分ほどのラジオ体操は〝究極の運動〟

平成13年から20年、毎日続けてきた福祉の森会館玄関前のラジオ体操を、コミュニティの健康づくり活動の一環として、これからも途切れさせることなく未来へと繋げていきます。

地域の皆さん、朝のラジオ体操で身体を目覚めさせ、体操仲間と交流しながら良い1日をスタートさせませんか。

**たった3分ほどの運動で、頭のてっぺんから足のつま先まで上下、左右、前後とひと通り身体を動かし、非常にバランスが取れている全身運動です。**

(全国ラジオ体操連盟)

### 福祉の森 ラジオ体操会場

毎日午前6時半から、「福祉の森会館玄関前の駐車場」で行っています。いつでも、だれでも、参加は自由です。気軽に参加してください。

今後は、さらにラジオ体操の会場を増やしていく予定です。

雨天、荒天中止

# 誰がこんないたずらをするんだろう アライグマ捕獲騒動記

発端はカラスやハト除け用に網をかけ隙間もない落花生の苗床での出来事である。蒔いた落花生の豆が芽を出そうと膨らみかけたところを、無残にも食い荒らされ全滅である。当初はまったく原因はわからず、蒔きなおしては荒らされ手を焼いていた。

トウモロコシ畑も全滅に近い被害を被っていた。また、スイカは中の美味しい部分だけを食べて、外の皮だけが残されている。そこの農家の奥さんは「あした孫の所へ持って行こうと思っていたのに！」とがっかりしていた。

当初はハクビシンの仕業ともっぱらの噂であったが、古河市内でアライグマの被害が多発していることが判明した。そこで市役所に訊うと、捕獲用の罠を予約制で貸し出しているとの事で早速予約した。入手してすぐに罠の設置に取りかかった。ブドウの木の下には多数の足跡があり、餌に落花生を入れその付近に置いた。翌朝、罠を見ると蓋が降りているではないか。そっと覗いてみるとタヌキのような動物が寝そべっている。よく見ると爪は長く、尻尾に白い輪がありこれはアライグマだと直感した。実物を間近に見るのは初めてだったのでこれがアライグマなのかとじっくりと観察した。人間に悪さをしなければ捕われる事もなかったのにと、やや感傷的にもなる。

最初の捕獲は7月1日。2日、3日と続けて3匹かかった。その次は6日、15日と罠にかかる間隔が長くなった。アライグマも学習し警戒していると思われ、餌を落花生とトウモロコシにしたら27日、30日で7匹目までかかったが、その後はなかなか入ってくれない。

捕獲されたアライグマ

罠の周りには沢山の足跡があるにもかかわらず、罠に入ってくれない。いよいよ彼らも警戒し学習している。人間とアライグマの知恵比べになりそうだ。何度か罠の餌を変えるが入らない。しかし、アライグマは、ブドウの木に上り、実や房を落とすようになり、人間をあざ笑うかのごとく振る舞っている。8月24日の夕方、餌に初めてサツマイモを入れたところ8匹目がかかった。

また、市民農園でもトウモロコシをはじめスイカ等の被害が続出し、罠を2台設置した。アライグマが3匹、タヌキが2匹捕獲できた。

秋の中旬、餌に柿と掘りたてのサツマイモを入れることにした。最後の14匹目を捕獲したのは10月6日。その後は足跡も被害も無くなった。

アライグマは特定外来生物に指定されており、捕獲した場合は市役所の農政課に連絡し引き渡し後に行政殺処分となる。ちなみにタヌキの場合は日本古来からの生息動物のため、捕獲時は解き放さなければならないそうである。

以上がアライグマの捕獲騒動記である。農作物への被害縮小へ少なからず貢献出来れば幸いである。

鴻巣一丁目自治会　黒田　和夫

## 光輝く高齢の皆様へ 人生百年時代 学び直しに熱視線人生

かつては考えられない事実。

日本では何と100歳以上の方が8万6,510人に上り51年連続で過去最多を更新。

医療の進歩や健康意識の高まりで100歳以上の男性は1万60人、女性は7万6,450人となりました。男性諸氏、理由はさておき頑張れ。

人口10万人当たり100歳以上の人数は全国平均が68.54人、都道府県別では島根県の134.75人が9年連続で最多、次いで高知県126.29人、鹿児島県118.74人と続きます。そして最少は32年連続で埼玉県の42.40人でした。

国内最高齢はギネスワールドレコーズ（英国）から世界最高齢と認定されている118歳の田中カ子（たなかかね）さん（福岡県）。男性は111歳の上田幹蔵さん（奈良県）でした。

今年度中に100歳になる見込みの高齢者は前年度比1,831人多い4万3,633人。お許し願う例えでいえば、東京ドームの読売ジャイアンツ戦に2日連続の満席数となります。

ちなみに古河市の100歳以上の方はどれくらいいらっしゃるか。現在54名（2021年10月1日付）の方々が頑張っているそうです。いつまでもお元気で!!

長島　正義

## 編集後記

第7地区コミュニティ誌〈第2号〉の編集を進めていると、第7地区内には実に多くの事柄が繰り広げられている事実にいまさらながら驚く。子どもたちに寄り添い、毎朝、黄色い旗を持って見守り、また、道端に捨てられたペットボトルや空き缶などのゴミや枯葉を寄せ集める……姿。野生小動物と農産物を荒らされまいとする生産者の"知恵比べ"等々。◇これらはすべて住民のボランティア活動で成り立っている ◇コミュニティ活動とは何なのか。**「コミュニティの中核に自治会が位置して、婦人や若者達の感覚や活動力を存分に発揮させる」**（関西学院大学名誉教授 倉田和四生「コミュニティ活動と自治会の役割」から）ことあった。

**＜編集委員＞** 山口義美、長島正義、大澤一男、桜井勝治